

428) 先頭車両

その日は赤羽で乗り換えて新宿へ行く予定だった。始発だというのに、どの車両も混雑していたので、前方の車両に乗ろうと思って、前へ前へと歩いて行くうちに、とうとう先頭車両まで来てしまった。発車のベルも鳴り始めていたので、まあいいかと思って乗り込むと、隣の若い女性が嫌な顔をする。『くそっ、このアマッコ、親爺を舐めやがって』と思ったが、そしらぬフリをして吊革に掴まっていると、今度は中年のおばさんが、軽蔑の眼差しでこっちを見ている。発車まで数秒になっているというのに、電車はどんどん混んで来る。しかもおばさん連中がやたらと多い。もう9時を少し過ぎているから、ご出勤の時間ではないからなのかもしれない。やがて電車が走り出し、ふと気が付くと、回りは女性ばかりで、男性は我のみである。それもそのはず、そこは午前10時までは、女性専用車だったのだ。